

まさにサスティナブルな建物、 ワンセントラルパーク

竹内いずみ



シドニー市内には数々の近代建築物があるが、その中で日本の大手ハウスメーカーである積水ハウスが開発を手掛けたのがワンセントラルパークである。4階建てのショッピングモールが入る商業ビルの上に、33階建ての東棟と16階建ての西棟の集合住宅からなるこの建物は、ビジネス街や複数の大学に隣接しシドニーの中央駅のすぐ近くという好立地に位置している。

この建物を見てまず目に入るのが広大な壁面緑化と、キャンティレバーで宙に浮かぶ無数の反射板だ。この建物の特徴の一つであるこの電動の反射板は、本来であれば日陰となるようなビル内の空間を明るく照らし、壁面緑化の植物にも光を届けている。反射板は低層階の屋上にも設けられており、そこから反射された光を高層階から持ち出した反射板に照射させることにより、日陰となるビル間を照らしている。反射板の設置数は屋上に40機、キャンティレバーに320機にも及び、二中は建物の隅々まで光を届けるとともに、夜にはLEDによる演出も行われるという。

壁面緑化、屋上庭園によりビル全体の熱負荷の低減とCO2の削減、反射板による自然光の活用など、今求められている要素が詰まった建物といえる。

【建物データ】

敷地面積：7,550 m²（全体 58,000 m²の一部）

建築面積：7,550 m² 延床面積：68,800 m²

鉄筋コンクリート造

東棟：33階建て 117m、西棟：16階建て 84m

マスタープランナー：ノーマン・フォスター

建築家：ジャン・ヌーベル

壁面緑化デザイナー：パトリック・ブランコ

反射板デザイナー：ヤン・カーサル

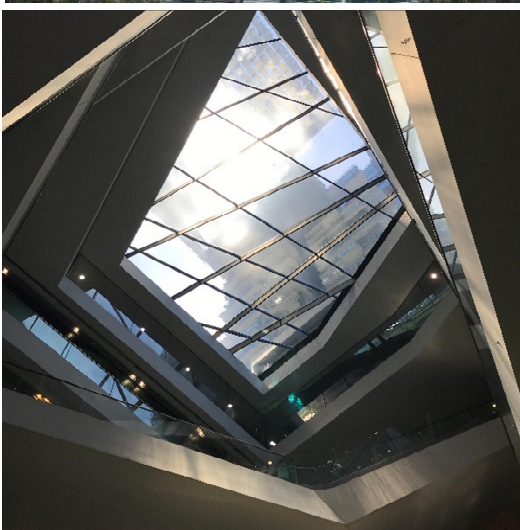
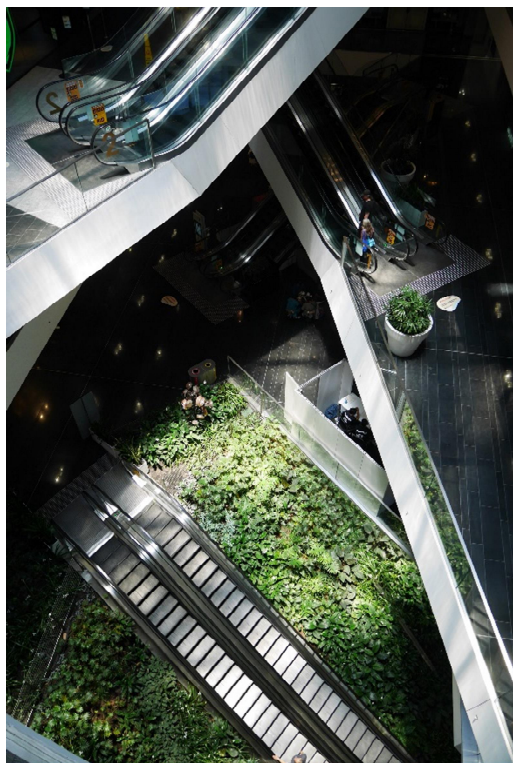
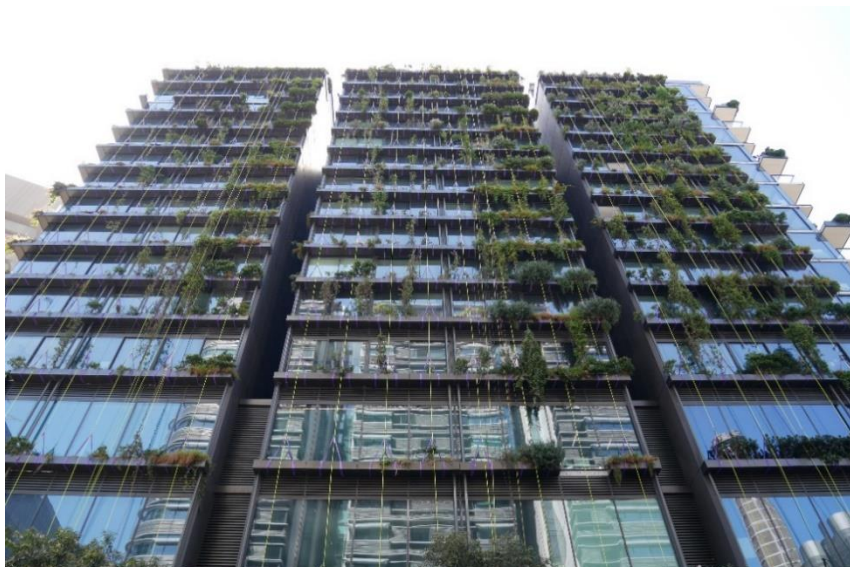
▶敷地内のオブジェ。街中にもいたる所にアートがあり、美術館も多くが無料で入場できる。

▼敷地内の緑あふれる公園空間。



「近年稀に見る高層ビルと緑化が融合した建築物で、街の景観にも配慮した美観をも携えている。環境に配慮した建築物として、これからの時代に必要なものになる。」というコメントと共に「Best Tall Building Worldwide（世界最高の高層ビル）」を受賞

(2014年11月)



▲壁面緑化面積は約 1,000 m² に及び、383 種、35,000 本の植物が植栽されており、オーストラリア固有の植物も多くあるという。竣工から 10 年余り経つが、広大な面積でありながらきれいに維持管理されている印象を受ける。植物は養分を含んだ鉱水に浸されたフェルト布に植えられており、土を使用していないという。室内側からの景色がどんな様子かみてみたい。

▲反射板からさらに屋上の水盤を通して吹き抜け空間に光が差し込む。建物の内部でありながら、植物が生き生きと育っている様子があり、太陽光がしっかりと届いていることが窺える。屋上の水盤は太陽光を反射しきらきらと輝いて見え、明るく開放的な空間となっている。

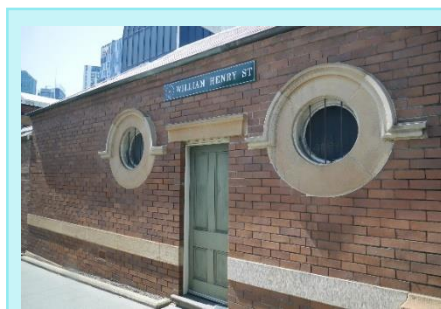


▶遠くからでも存在感を放つ反射板。近接階からどう見えているのかが気になるところ。

反射板は太陽光を追跡し自動調整され、二つの反射板の角度の組み合わせによって太陽光を届けているという。



▲商業フロアには日本でおなじみのダイソーが。200 円商品が 6A\$ とやはり少し割高となっている。オーストラリアの物価は日本より高いが、その分人件費も高く、昨今では日本から出稼ぎにいく若者も多いという。



街角スナップ

◀丸窓と扉がまるで顔の様にみえるおもしろい壁面。